

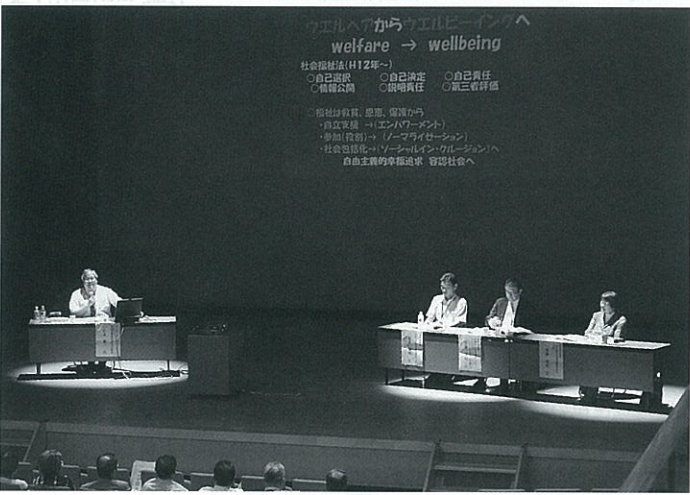


寸劇の最後には、地域包括支援センターをPR。

社協職員らによる熱演に、客席からは笑い声も聞こえました。



セミナーには福祉関係者だけでなく、一般住民も多く参加。少子高齢化の進む中、多くの人が関心を寄せているテーマです。



後半のシンポジウムでは、市社協職員、司法書士、住民団体代表が、それぞれの立場から事例を発表。コーディネーターからは「理念や概念では理解しにくい内容でも、事例を用いれば分かりやすくなる」といった話があり、発表後は、会場から「効率的な周知方法を教えてほしい」という質問が寄せられました。

具体的な事例ほど相手に伝わっていく

「デイサービスやホームヘルプサービスなど、社協の事業で接点のある方たちの声に丁寧に耳を傾け、制度を必要としている人たちに情報を届けていきたい」と答えたのは、田村市社協の根本昭雄さん。

司法書士で、社団法人成年後見センター「リーガルサポート」ふくしま支部長の伊藤栄紀さんからは、「成年後見人の出前養成講座」が紹介されました。障がい者の親の会などを対象に実施してきたこの講座は、「成年後見制度で何ができるのか、どこまでできるのか」を各自が主体的に知り、考えるきっかけになるそうです。実際に制度が必要な人が、「自分には成年後見制度が必要」と申し出ることはほとんどありません。成年後見制度は、判断能力が低下した人を守る制度ですが、今の契約社会で、実際に判断能力が低下した人たちが暮らしていくのは難しいのが現実です。伊藤さんは、「今後も福祉分野と連携し成年後見制度の理解を広めていきたい」と話します。



「人生の少し先を考えるためにも、判断能力の確かなうちに、任意後見制度を活用してほしい」と成年後見制度研修委員会の遠藤喜恵さん。

地域の人たちが必要とする制度やサービスが行き渡っていくためには、やはり「地域のつながり」や「支え合う仕組み」が必要です。コーディネーターは、「地域力」というのは、「一人ひとりの意識。学んだことを持ち帰り、『こういう制度があるよ』と必要の人に広めてほしい」と、最後にセミナーをしめくつていました。

「地域力を活用する」と話していたのは、成年後見制度研修委員会代表の遠藤喜恵さんです。遠藤さんは、市民後見人として制度をわかりやすく説明するための説明会を設けたり、様々な相談を受けたりしています。

「閲覧板を手渡しするだけでも地域の力は高まります。地域での活動を楽しみ、声をかけ合いながら、次世代につないでいける制度として、自分ができることを見つけていきたい」と遠藤さん。

学んだことを教え合う地域力に期待

「あんしんサポート」「成年後見制度」を必要としている人に、わかりやすく伝えるために

～暮らしのあんしんセミナー（地域の福祉力セミナー）から



高齢者を訪ねた民生委員が、訪問販売で高額な布団を購入しているのに気づいて、「あんしんサポート」につなげるまでを寸劇で紹介した県社協職員。

認知症や知的・精神障がいによって判断能力が十分でない方の日常的な金銭管理を社協が手伝いしながら、生活上の困りごとの相談を受けるのが「あんしんサポート」。家庭裁判所が選任した後見人が、本人の代わりに契約等法律行為を行う民法上の制度が「成年後見制度」です。どちらの制度も介護保険制度と同時に、10年ほど前にスタートしました。ちょっとした説明では、わかりにくいこれらの制度を周知し、より多くの人に理解・利用してもらうために、福祉関係者をはじめとする支援者には、多くの工夫や努力が求められています。

三春交流館「まほら」で行われたセミナーのテーマは、『暮らしのあんしんセミナー（地域の福祉力セミナー）』。三春町・田村市・小野町社協、県社協の共同開催で、当日は会場に定員の200名以上が集まりました。

「これだけの規模になると、一つの社協だけでは開催は難しいのですが、共催

共催で規模の大きなセミナーを開催

認知症などによって判断能力が低下した方たちが、地域で安心して暮らすための制度「あんしんサポート」と「成年後見制度」。これらの制度を効果的に周知し、より多くの人に利用してもらうことを目指し、7月8日、三春町でセミナーが開催されました。



「何かあれば『社協に相談』という存在になるために、もっと地域へ出ていくことも課題」と三春町社協の安積直俊さん。

で実現することができました」と話すのは、三春町社協福祉活動専門員の安積直俊さん。「社協だよりなどの広報誌は、介護保険の情報が多くなりがちです。地域のなかで必要としている方たちに情報を届けるためにも、このセミナーで成年後見制度などについて、多くの人に知ってもらいたいと思っています」。

当日は、はじめに県社協職員が二つの制度について簡単に説明した後、利用が望まれる代表的なケースを寸劇で紹介しました。

軽い認知症があり、ヘルパーの支援を受けながら一人暮らしをしていた高齢の男性が、突然帰ってきた娘に通帳を持ち出されたり、訪問販売に高額な布団を勧められたり……深刻な内容の中にもユーモアを交えながら、県社協・三春町社協・三春町地域包括支援センターの職員が熱演しました。

みんなで育てる地域福祉



取材協力
三春町社会福祉協議会
〒963-7756
田村郡三春町字南町1番地
TEL 0247-62-8586 ほか